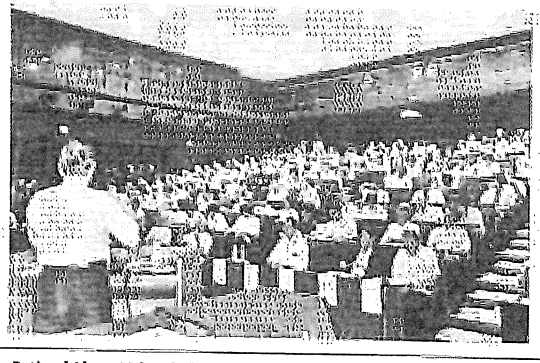
つ、中部ガス不動産の田中博文氏が「面大増価について、適用方法と考え方」について講話。

最後に、日本土地評価システムの近藤裕二氏が「残地売却損率の適用」について話した。

インフラの長寿命化講習会開く

ＩＰＨ工法協

ＩＰＨ工法協会（加川順一理事長）は27日、名古屋市内でインフラの長寿命化に関わる講習会を開催し、高密度に樹脂を充填（じゅうてん）させることで耐久性向上と耐力回復を可能とするＩＰＨ（内圧充填接合補強）工法の有効性を訴えた。これには約２２０人が参加し、構造体の内部から注入することで、微細部まで接合させるコンクリートの長寿命化工法（ＩＰＨ工法）について学んだ＝写真。



国土交通省中部地方整備局名古屋国道事務所の山田直也事務所長のあいさつの後、名古屋大学大学院の中村光教授が「コンクリート構造物の長寿命化対策に向けて」と題して講演した。

中村教授は、インフラを取り巻く社会状況や法整備、第三者被害について話した後、電食実験によるひび割れ進展挙動、部分腐食の影響を解説した。ロボット・ＡＩ技術や判定手法の開発状況を説明した上で、社会インフラの健康診断の必要性を強調。工期短縮、トータルコストの低減といった社会要請に応えられる技術開発が求められていることを示した。

同工法協会の加川理事長は、同工法の特長を①空気と樹脂の置換②高密度充填③強度回復・耐久性向上―などの観点から説明。「浮きや剥落、中性化、塩害、ひび割れなどといったコンクリートの劣化症状や変状に適用し、構造物の補修や補強が可能な技術である」と強調した。

京都大学大学院の塩谷智基特定教授は、「先端非破壊検査手法によるコンクリート構造物の劣化評価」をテーマに講演し、限られた予算で最大の効果を生むには、「定期検査にはトモグラフィ手法、連続監視にはＡＥ計測システムの採用が適切である」と説明した。

理解し、現場に反映してほしい」とあいさつした。

西尾レントオールや福井コンピュータの担当者が講師を務め、ＵＡＶ（無人航空機）や３Ｄレーザースキャナーの概要。ＴＬＳで測量した３次元点群データの解析とデータの利活用などを説明した後、屋外で３Ｄマシンガイダンスシステム搭載の重機の操作を体感した。

フリーウォーク見学会を8月25日

名古屋市が椿町線・笹島線開通記念

名古屋市住宅都市局は、都市計画道路椿町線・笹島線の本線部開通を記念し、8月25日にフリーウォーク見学会を開く。開通後は歩くことができなくなる、鉄道部とのアンダーパス部を歩くことができる他、会場には道路整備に関するパネルを展示する。時間は午前10時～午後4時。場所は椿町線・笹島線の本線部開通区間。事前申し込みは不要。参加費無料。

椿町線・笹島線の本線部開通は9月16日午前5時ごろ。開通区間は、椿町線が岩塚牧野線（中村区太閤3丁目）～岩井町線（中川区運河町）の延長約640㍍、笹島線はささしまライブ24地区内の延長約200㍍。

団体動向

▽名古屋建設業協会（高山進会長）―8月4日午前8時30分から名古屋市千種区の平和公園内で、ごみ清掃のボランティア活動を実施する